

令和8年度

主要農作物

奨励品種特性表

岐阜県

利 用 上 の 注 意

1 編集概要

本表は、令和8年4月1日現在における当県の主要農作物奨励品種について、農業技術センター、中山間農業研究所の奨励品種決定調査等で明らかにされた品種の諸特性を集約したものです。

2 特性表の項目の取扱いについて

- (1) 本表に示された品種特性は、あくまでも研究機関で得られたデータに基づくものであり、農家の平均値でないことに注意して利用してください。
- (2) 本表中の成熟期は、研究機関における標準的な栽培条件によるものであって、おおよその目安とし、農家個々のほ場の収穫期については、水稻では籾の色で最終判断し、適期収穫による品質向上を図るよう指導してください。

種類	品 種 名	来 歴	奨励・準 奨励品 種決定 年次	試験場 所	試験場 所におけ る早中晩	移植期 (月日)	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	稈 長 (cm)	穂 長 (cm)	草 型	千粒重 (g)	品 質	食 味	耐 倒伏性
うるち	あきたこまち	コシヒカリ×奥羽292号	平5	岐阜市	早の早	5.10	7.19	8.19	76	19.8	偏穂数	22.3	中の上	上の下	中
うるち	ひとめぼれ	コシヒカリ×初星	平12	岐阜市	早の中	5.10	7.24	8.25	77	20.9	偏穂数	23.2	中の上	上の中	やや弱
うるち	コシヒカリ	農林22号×農林1号	昭55	岐阜市	早の中	5.10	7.26	8.26	85	20.3	中 間	22.4	中の上	上の中	極弱
						6.10	8.10	9.12	88	20.4		23.2			
うるち	つや姫	山形70号×東北164号	平29	岐阜市	早の中	5.10	7.27	8.28	70	19.3	中 間	22.6	中の上	上の中	やや強
うるち	清流のめぐみ	てんたかく×岐系125号	令8	岐阜市	早の晩	5.10	7.27	8.27	81	22.5	中 間	21.6	中の上	上の中	やや強
うるち	にじのきらめき	西南136号×北陸223号	令8	岐阜市	早の晩	5.11	7.27	8.30	63	20.6	中 間	24.7	中の上	上の中	強
うるち	ほしじるし	関東199号×関東209号	平31	岐阜市	中の中	6.10	8.15	9.19	67	21.2	偏穂重	24.3	中の上	上の中	強
うるち	みににしき	ニホンマサリ×ハツシモ	昭62	岐阜市	晩の早	6.10	8.22	9.25	81	21.6	中 間	26.7	中の上	上の中	弱
うるち	ハツシモ岐阜SL	岐系164号/6×ハツシモ	平21	岐阜市	晩の中	5.10	8.19	9.22	83	22.2	中 間	23.8	上の中	上の中	弱
						6.10	8.30	10.04	86	22.2		24.8			
も ち	モチミノリ	喜寿糯×関東125号	平4	岐阜市	中の中	6.10	8.21	9.23	73	22.9	偏穂重	21.6	中の上	上の中	強

品 種 名	耐 病 性					優 点	留 意 点	栽培を奨励しようとする地帯	栽培上の注意
	縞葉枯病	葉いもち	穂いもち	紋枯病	ごま葉枯病				
あきたこまち	弱	中	中	中	強	品質が安定している。 熟期が早い。	やや倒伏しやすい。 高温登熟性が中。	平坦地の早植栽培地帯	コシヒカリ程ではないが、倒伏しやすいため多肥にしない。 登熟期の高温対策管理を行う。
ひとめぼれ	弱	弱	弱	中	—	食味が良い。 品質が安定している。	やや倒伏しやすい。 普通期植では熟期がコシヒカリ並～やや遅れる。 高温登熟性が中。	平坦地の早植栽培地帯	倒伏しやすいため多肥にしない。 普通期植では、出穂・成熟期がコシヒカリ並～やや遅れるので注意する。 登熟期の高温対策管理を行う。
コシヒカリ	弱	弱	弱	中	強	食味が良い。	倒伏しやすい。 高温登熟性が中。	平坦地の早植栽培地帯	倒伏を避けるため、下位節間を伸ばさないような肥培管理をする。 登熟期の高温対策管理をしっかりと行う。
つや姫	弱	中	弱	—	—	高温登熟性がやや強。 食味が良い。		平坦地の早植栽培地帯	特別栽培基準で栽培すること(順守義務)。 登熟期の高温対策管理に注意する。
清流のめぐみ	極強	弱	—	—	—	高温登熟性が強からやや強。 稈長がやや長い耐倒伏性に優れる。 食味が良い。		平坦地の早植栽培地帯	耐倒伏性を有するが、多肥すると食味が低下するので留意する。 登熟期の高温対策管理に注意する。
にじのきらめき	極強	中	やや強	—	—	高温登熟性がやや強。 稈長が短く耐倒伏性に優れる。 食味が良い。		平坦地の早植栽培地帯	業務用向け生産には十分な施肥量が必要となる。 耐倒伏性を有するが、多肥すると食味が低下するので留意する。 登熟期の高温対策管理に注意する。
ほしじるし	極強	中	弱	—	—	倒伏し難い。 多肥で多収。 直播栽培に適する。	高温登熟性が中。	平坦地帯	業務用向け生産には十分な施肥量が必要となる。 登熟期の高温対策管理をしっかりと行う。
みのにしき	弱	—	中	中	中	極大粒で食味が良い。	やや倒伏しやすい。	中濃の平坦地帯	倒伏を避けるため、下位節間を伸ばさないような肥培管理をする。
ハツシモ岐阜SL	極強	弱	弱	—	—	大粒で食味が良い。 ハツシモの縞葉枯病抵抗性系統。	多肥するとやや倒伏しやすい。	平坦地帯	倒伏や食味低下を生じさせないため多肥にしない。
モチミノリ	極強	中	中	中	強	良質で比較的多収。 ふ先色有り、加工適性並。		平坦地帯	籾数確保のため、穂肥は出穂前25日頃とする。

注(1) 出穂期は全茎の40～50%が出穂した期日。

(2) 調査 令和元～令和7年(7中5平均)。

(3) 清流のめぐみに関する調査 平成30～令和4、7年(6中4平均)。

(4) にじのきらめきに関する調査 平成27年～平成29年、令和7年(4中2平均)。

種類	品 種 名	来 歴	奨励・準奨励品種決定年次	試験場所	試験場所における早中晩	移植期(月日)	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	草 型	千粒重(g)	品 質	食 味	耐倒伏性
うるち	あきたこまち	コシヒカリ×奥羽292号	平5	中津川市	早の早	5.15	7.26	9.02	78	18.4	偏穂数	22.9	上の中	上の中	中
うるち	ひとめぼれ	コシヒカリ×初星	平12	中津川市	早の中	5.15	7.30	9.04	80	19.5	偏穂数	24.3	上の中	上の中	弱
うるち	コシヒカリ	農林22号×農林1号	昭55	中津川市	早の中	5.15	8.03	9.12	91	19.3	中 間	22.9	上の中	上の上	極弱
酒米	酔むすび	飛系酒61号 突然変異	令8	中津川市	中の早	5.15	8.06	9.14	87	21.5	偏穂重	26.9	中の下	-	中
も ち	ココノエモチ	中部26号×稲系糯108	平4	中津川市	早の中	5.15	7.29	9.03	71	18.8	偏穂数	22.8	中の下	上の中	強

品 種 名	耐冷性	耐 病 性				優 点	留 意 点	栽培を奨励しようとする地帯	栽 培 上 の 注 意
		いもち病	紋枯病	白葉枯病	ごま葉枯病				
あきたこまち	強	中	中	—	強	品質が安定している。 食味が良い。	多肥にすると倒伏しやすい。 いもち病にやや弱い。	中山間地帯 (標高300~650m)	コシヒカリ程ではないが、倒伏しやすいため多肥にしない。 いもち病の適期防除を行う。
ひとめぼれ	強	弱	中	—	—	品質が安定している。 食味が良い。	やや倒伏しやすい。 熟期がコシヒカリと重なる。	中山間地帯 いもち病の常発地帯はさける。	コシヒカリ程ではないが、倒伏しやすいため多肥にしない。
コシヒカリ	強	弱	中	中	やや強	食味が極めて良い。	倒伏しやすい。 いもち病に弱い。	中山間地帯 いもち病の常発地帯はさける。	倒伏しやすいため多肥しない。 倒伏を避けるため、下位節間を伸ばさないような肥培管理をする。 いもち病を主体とした総合防除を徹底する。
酔むすび	弱	強	弱	—	—	醸造適性が高く、心白が小さいため大吟醸酒の製造も可能	穂発芽しやすい。刈り遅れにより胴割れしやすい。	東濃を中心とした中山間地帯 (標高200~400m)	遅れないよう適期に収穫する。 いもち病の適期防除を行う。
ココノエモチ	強	強	弱	中	強	収量性が高く安定している。 ふ先色があり識別し易い。 穂発芽難。	年により品質が劣る場合がある。 紋枯病にやや弱い。	東濃を中心とした中山間地帯 (標高300~400m)	玄米品質を落とさないため多肥にしない。 刈遅れないよう適期に収穫する。 紋枯病・いもち病の適期防除を行う。

注(1)出穂期は全茎の40~50%が出穂した期日。

(2)あきたこまちに関する調査 令和2~7年(6年平均)。

(3)ひとめぼれに関する調査 令和2~7年(6年平均)。

(4)コシヒカリに関する調査 令和2~7年(6年平均)。

(5)ココノエモチに関する調査 令和2~7年(6年平均)。

(6)酔むすびに関する調査 令和4~7年(4年平均)。

(7)清流のめぐみ、にじのきらめきについては令和8年度より調査予定。

種類	品 種 名	来 歴	奨励・準奨励品種決定年次	試験場所	試験場所における早中晩	移植期(月日)	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	草型	千粒重(g)	品質	食味	耐倒伏性
うるち	あきたこまち	コシヒカリ×奥羽292号	平5	飛騨市	早の早	5.15	7.25	8.30	78	18.9	中間	23.4	上の中	上の中	中
うるち	ひとめぼれ	コシヒカリ×初星	平12	飛騨市	早の中	5.15	7.30	9.05	78	19.9	偏穂数	23.8	上の中	上の中	弱
うるち	コシヒカリ	農林22号×農林1号	昭55	飛騨市	早の中	5.15	8.02	9.10	88	19.7	中間	23.0	上の中	上の上	極弱
うるち	清流のめぐみ	てんたかく×岐系125号	令8	飛騨市	早の中	5.15	8.03	9.10	87	21.2	中間	23.4	上の中	上の中	やや強
酒 米	ひだほまれ	F1(ひだみのり×フクノハナ) ×フクニシキ	昭56	飛騨市	早の中	5.15	7.29	9.02	78	21.1	穂重	28.4	上の中	—	中
も ち	たかやまもち	ミョウジョウより見出し	昭48	飛騨市	極早	5.15	7.24	8.28	74	18.6	中間	22.0	上の中	上の中	強

品 種 名	耐冷性	耐 病 性				優 点	留 意 点	栽培を奨励しようとする地帯	栽培上の注意
		いもち病	紋枯病	白葉枯病	ごま葉枯病				
あきたこまち	強	中	中	—	—	良質で安定多収。	多肥にすると倒伏しやすい。 いもち病にやや弱い。	山間高冷地帯 限界標高650m	いもち病の適期防除に努める。
ひとめぼれ	強	弱	中	—	—	品質が安定している。 食味が良い。	いもち病に弱く、多肥にすると倒伏しやすい。	山間高冷地帯 限界標高700m	いもち病に弱いので予防防除に努め、発生に応じ追加防除を行う。
コシヒカリ	強	弱	中	—	—	食味が極めて良い。	倒伏しやすい。 いもち病に弱い。	山間高冷地帯 限界標高650m	倒伏を避けるため、幼穂形成期の葉色を十分低下させる。 いもち病の適期防除に努める。
清流のめぐみ	やや強	弱	中	—	—	良質で耐倒伏性が強い。	いもち病に弱い。	山間高冷地帯 限界標高650m	いもち病の適期防除に努める。
ひだほまれ	中	強	中	—	—	極大粒で心白の発現が良く、酒造に適する。	立毛胴割れとなりやすい。 穂発芽しやすい。	山間高冷地帯から中山間地帯、限界標高450~650m (酒造好適契約品種)	大粒であるので立毛胴割れさせないため、早刈りとする。 急激な乾燥調製による胴割れに注意する。
たかやまもち	弱	強	強	中	—	品質が良い。	ふ色、ふ先色ではうるちとの識別が困難。 穂発芽しやすく耐冷性弱。	山間高冷地帯 限界標高650m	冷水田の栽培は避ける。 葉色をあまり低下させないように栽培する。 うるちとの混種に注意する。

注(1)出穂期は全茎の40~50%が出穂した期日。

(2)調査 令和元~令和7年(7中5)。

(3)清流のめぐみに関する調査 令和3~5年(3年平均)。

麦類奨励品種特性表

(試験場所)岐阜市—農業技術センター/飛騨市—中山間農業研究所/中津川市—中山間農業研究所中津川支所

種類	品種名	来歴	奨励・準奨励品種決定年次	試験場所	播種期(月日)	出穂期(月日)	成熟期(月日)	稈長(cm)	穂長(cm)	千粒重(g)	品質	播性程度	耐倒伏性
小麦	イワイノダイチ	秋9 [*] ×西海168号(きぬいろは) (※関東101号×西海154号のF6世代個体)	平16	岐阜市	11.05	4.05	5.27	86	9.0	44.5	上の中	IV	やや強
小麦	さとのそら	F1(東山25号(しゅんよう)×西海168号(きぬいろは)) ×ニシカゼコムギ	平27	岐阜市	11.05	4.09	5.30	80	8.5	41.4	上の中	IV	やや強
小麦	タマイズミR	TM1G1833/4×タマイズミ	令5	岐阜市	11.05	4.09	5.29	83	9.2	43.1	上の中	I～II	やや強
六条大麦	ファイバースノウ	シュンライ×東山皮86号	令6	飛騨市	10.19	4.29	6.07	94	4.4	37.7	上の中	IV	強
六条大麦	カシマゴール	関東皮78号(さやかぜ)×関東裸77号	令6	岐阜市	11.05	4.04	5.20	80	4.3	34.6	上の中	I	強

品種名	耐病性				優 点	留 意 点	栽培を奨励しようとする地帯	栽培上の注意
	赤さび病	うどんこ病	赤かび病	コムギ(オオムギ)縞萎縮病				
イワイノダイチ	中	やや強	中	強	早熟で倒伏に強い。 播性程度が高く早播しても凍霜害を受けにくい。 良質で製粉・製麺適性に優れる。	蛋白質含量がやや低い。 晩播すると高蛋白になるものの、粉色の劣化が著しい。	平坦地帯	倒伏を避けるため多肥にし過ぎない。 排水に留意して健全な生育を確保し、蛋白質含量を低下させない。
さとのそら	強	強	中	強	播性程度が高く早播しても霜害を受けにくい。 倒伏に強い。 良質で製粉・製麺適性に優れる。		平坦地帯	晩播(11月下旬以降)すると、収量の低下を招く恐れがあるので、播種量を10kg/10a程度に増やす。
タマイズミR	弱	弱	中	強	倒伏に強い。 原粒粗蛋白含量が高い。 製麺特性、製パン性に優れる。	早播すると凍霜害に遭いやすい。 穂発芽性はやや難。 やや少収。	平坦地帯	11月第1半旬～第2半旬に播種し、早播きを避ける。刈り遅れしないこと。 白粒・硬質系であるので収穫調整に注意する。
ファイバースノウ	—	中	やや弱	—	倒伏に強い。 蛋白含量が高い。	収量を確保するため、初期生育を確保する。	中山間地帯～山間高冷地(標高500m程度)	排水に留意し、出芽や初期生育を良好にする。 蛋白質含量増加のためには出穂期頃の追肥を検討する。
カシマゴール	—	強	やや弱	極強	倒伏に強い。 麦茶適性を持つ。 穂発芽性は極難である。 稈の中折が発生し難い。	凍霜害に遭いやすい。 耐湿性が中。	平坦地帯	湿害に弱いので、排水対策に留意する。 栽培適地は標高70m以下。

注(1)出穂期は全茎の40～50%が出穂した期日。

(2)調査 令和元～令和7年(7中5平均)。

(3)タマイズミRに関する調査 平成29～令和3、6、7年(7中5平均)。

(4)カシマゴールに関する調査 平成23～26、令和6、7年(6中4平均)。

大豆奨励品種特性表

(試験場所)岐阜市—農業技術センター/飛騨市—中山間農業研究所/中津川市—中山間農業研究所中津川支所

品種名	来歴	奨励・準奨励品種決定年次	試験場所	播種期(月日)	開花期(月日)	成熟期(月日)	主茎長(cm)	主茎節数(節)	分枝数(本)	蔓化	耐倒伏性	子実		
												百粒重(g)	皮ぎれ	品質
フクユタカ	岡大豆×白大豆3号	平5	岐阜市	7.08	8.24	11.11	54	14.7	5.2	中	中	31.4	微	上
里のほほえみ	東北129号×刈交0264MYF6	令4	飛騨市	6.07	7.27	10.12	63	12.3	5.1	やや強	強	40.6	微	上

品種名	耐病性									優 点	留 意 点	栽培を奨励しようとする地帯	栽培上の注意
	毛茸の色	花色	熟莢色	裂莢性	子実の粒形	種皮色	臍色	紫斑病	ダイズモザイク病				
フクユタカ	白	紫	淡褐	難	球	黄白	淡褐	強	中	良質多収である。晩播適性が高く比較的裂莢し難く、着莢位置が高いので、機械収穫に適する。蛋白質含量が高く、豆腐加工適性が高い。	早播すると蔓化・倒伏しやすく、裂莢することがある。夏期の高温・干ばつに注意する。	平坦地帯	平坦地帯での早播や狭畦密播種する場合、摘心処理が必要となる。排水対策を徹底する。
里のほほえみ	白	白	褐	難	扁球	黄白	黄	強	強	青立ちが少ない。裂莢しにくく、着莢位置が高い。蛋白質含量が高く、豆腐加工適性が高い。	早播きすると青立ちが発生しやすい。	中山間地帯(標高200~500m程度を目安とする)	ダイズシストセンチュウに弱いため、過度の連作やセンチュウ被害の発生歴のあるほ場での栽培は避ける。

注(1)開花期は全株の40~50%が開花を始めた時をいう。

(2)調査 令和元~令和7年(7中5平均)。

産地品種銘柄一覧表

(令和8年4月現在)

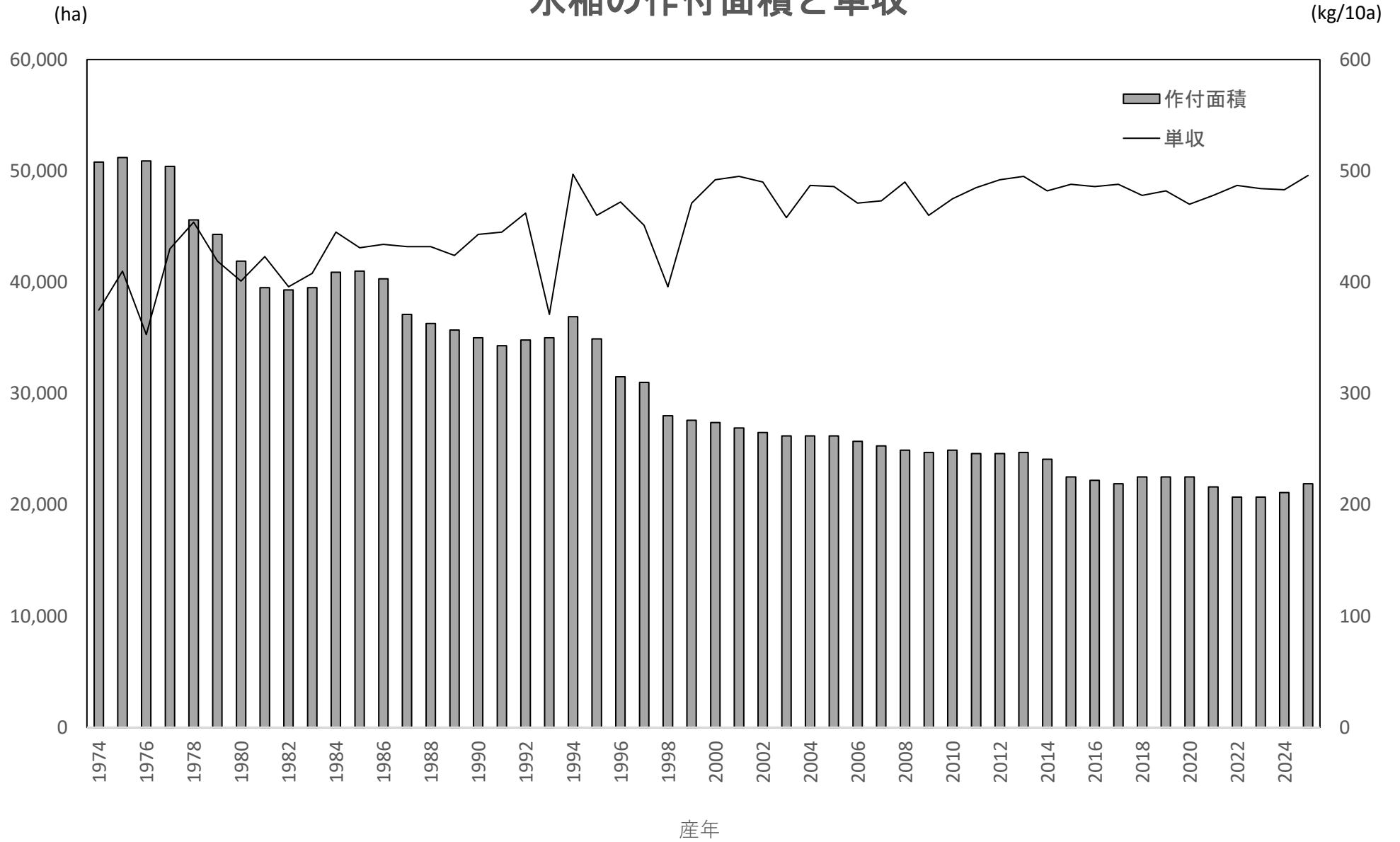
種 類		産 地 品 種 銘 柄		
水 稻	うるちもみ うるち玄米	あきたこまち	金光	ミルキークイーン
		あさひの夢	つや姫	夢ごこち
		コシヒカリ	日本晴	こなゆきひめ
		ハツシモ	ハイブリッドとうごう3号	清水1号
		ひとめぼれ	ハイブリッドとうごう44号	清水2号
		あきさかり	はなの舞い	にじのきらめき
		いのちの壱	ヒノヒカリ	清流のめぐみ
		LGCソフト	ほしじるし	
		縁結び	ミネアサヒ	
		キヌヒカリ	みのにしき	
	もちもみ もち玄米	たかやまもち	きねふりもち	
		モチミノリ	ココノエモチ	
	醸造用玄米	五百万石	揖斐の誉	
		ひだほまれ	酔むすび	
麦 類	普通小麦	イワイノダイチ	タマイズミ	
		農林61号		
		さとのそら		
	普通小粒大麦	ファイバースノウ	カシマゴール	
		ミノリムギ	さやかぜ	
大 豆	普通大豆及び 特定加工用大豆	タチナガハ	里のほほえみ	
		フクユタカ	中鉄砲	
		アキシロメ	つやほまれ	

注 (1)農産物検査法第11条第1項の規定に基づき定められた農産物規格規程による。

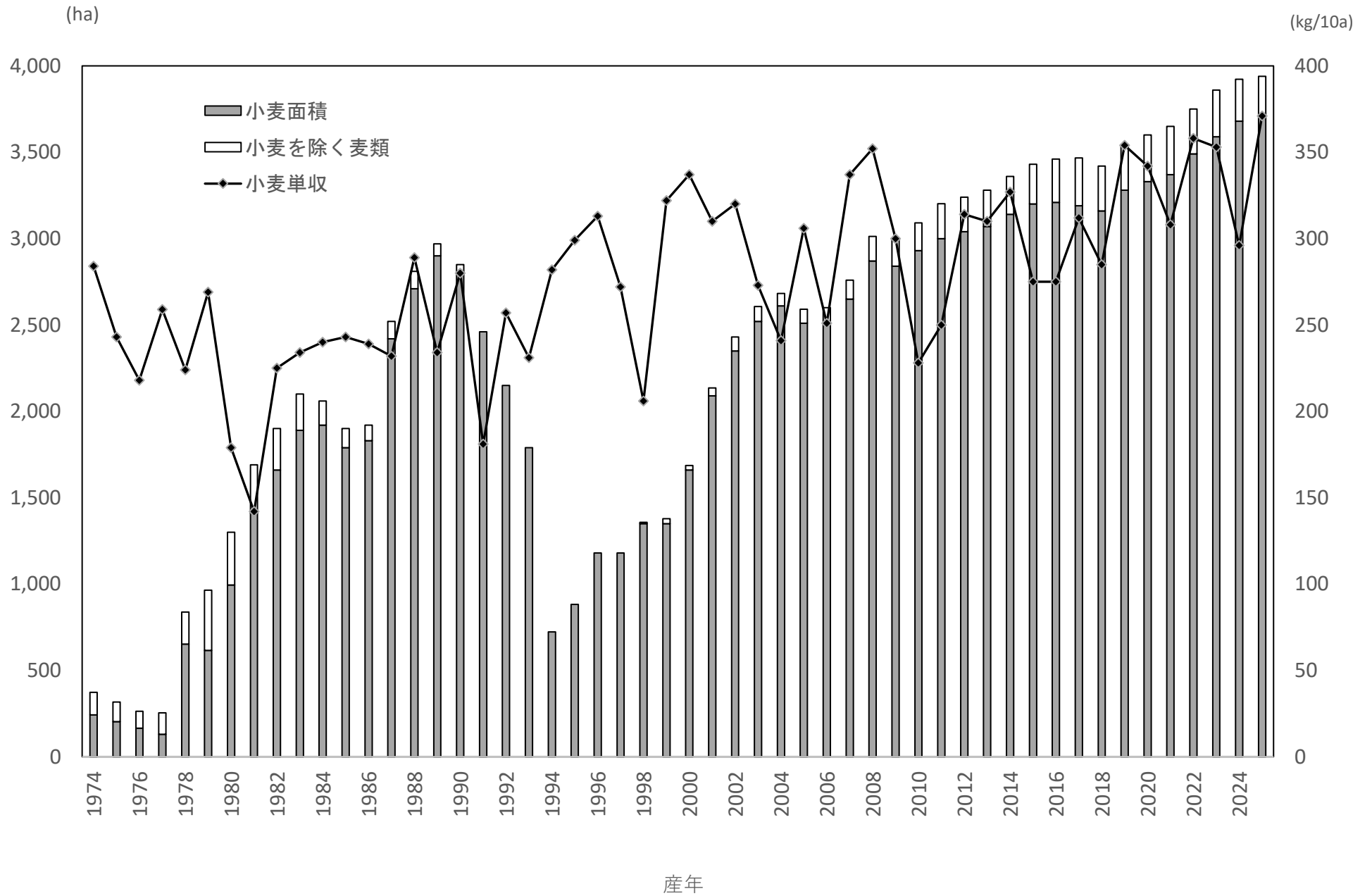
(2)大豆の項は、大粒大豆及び中粒大豆のみ適用。

(3) は、必須銘柄(県内全ての検査機関が検査を行う)。その他は、選択銘柄(検査機関毎に検査を行うことを選択する銘柄)。

水稻の作付面積と単収



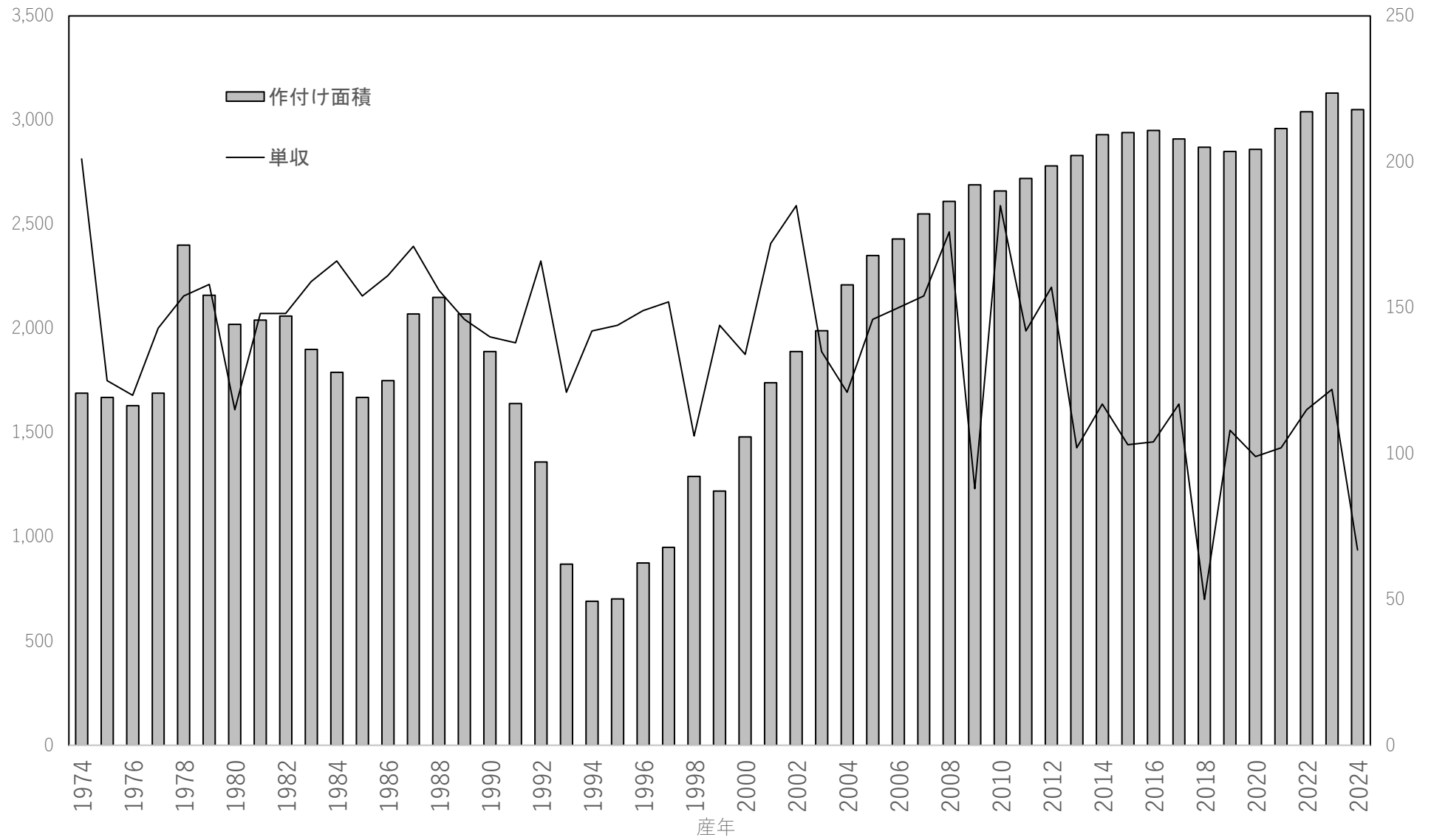
麦類の作付面積と小麦の単収



(ha)

大豆の作付面積と単収

(kg/10a)



● 水稻の適期収穫の重要性 ～ 収穫期の前進化と適期幅の短縮～

近年の登熟期における高温傾向の影響

- ◇ 7月～10月の平均気温が高まっていることから(図1)、出穂期からの登熟日数は短くなりつつあり、成熟期の判断が遅れ気味になりがちである。
- ◇ 特に、晩生種ハツシモは、出穂期の変動が少ない割に、9月以降の高温により成熟期が急激に早まり、収穫適期の幅は確実に狭まっている。
- ◇ 登熟期間の高温傾向により籾の黄化が一様でなく、成熟期の目安とされる出穂後の登熟積算温度と実際の成熟期とのズレが大きくなっている。(図2)。

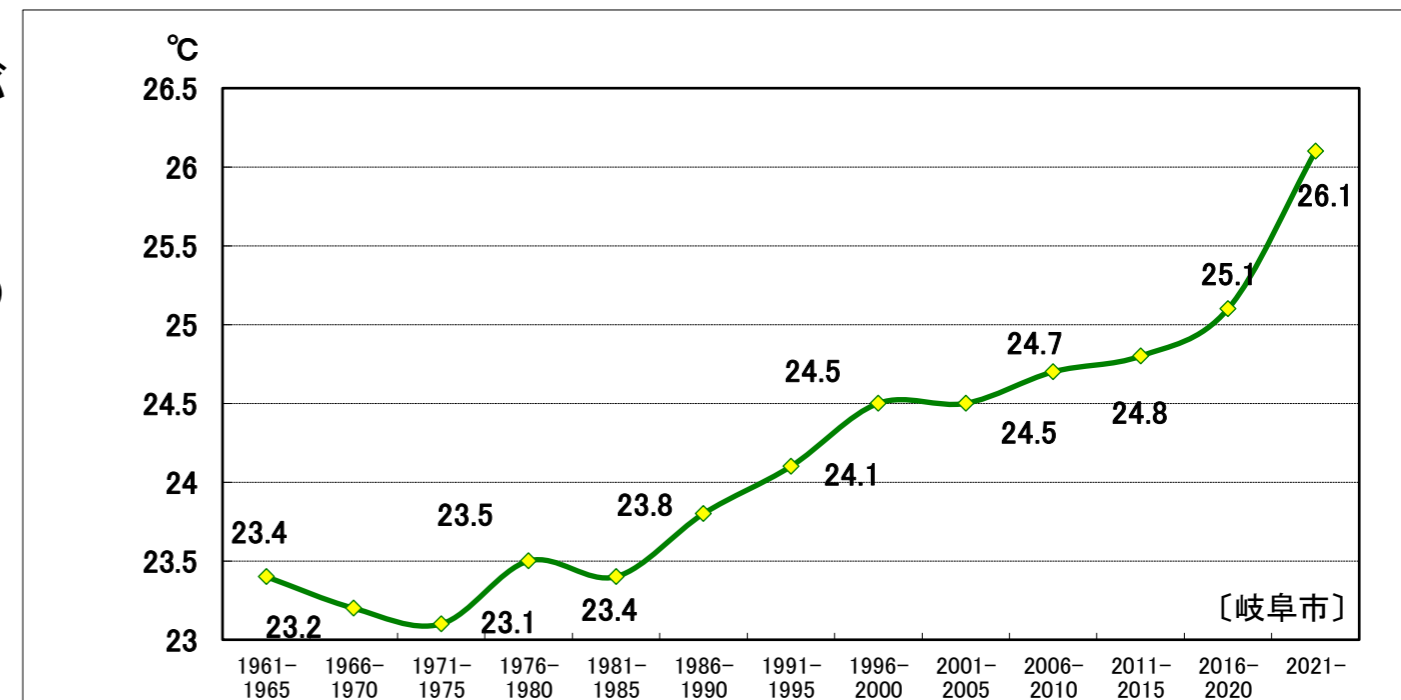


図1 7月～10月期間平均気温の年次変化

(参考) 出穂後の登熟積算温度(収穫最盛期の目安)

コシヒカリ、ハツシモ岐阜SL(早植)、あきたこまち、ひとめぼれ = 950°C
 清流のめぐみ(早植)、にじのきらめき(早植) = 1050°C
 ハツシモ岐阜SL(普通期植)、みのにしき(普通期植) = 1050°C

中山間地帯

コシヒカリ、あきたこまち、ココノエモチ = 950°C
 ひとめぼれ = 990°C

山間高冷地帯

コシヒカリ、あきたこまち、ひとめぼれ = 950°C
 ひだほまれ = 900°C
 たかやまもち = 950°C

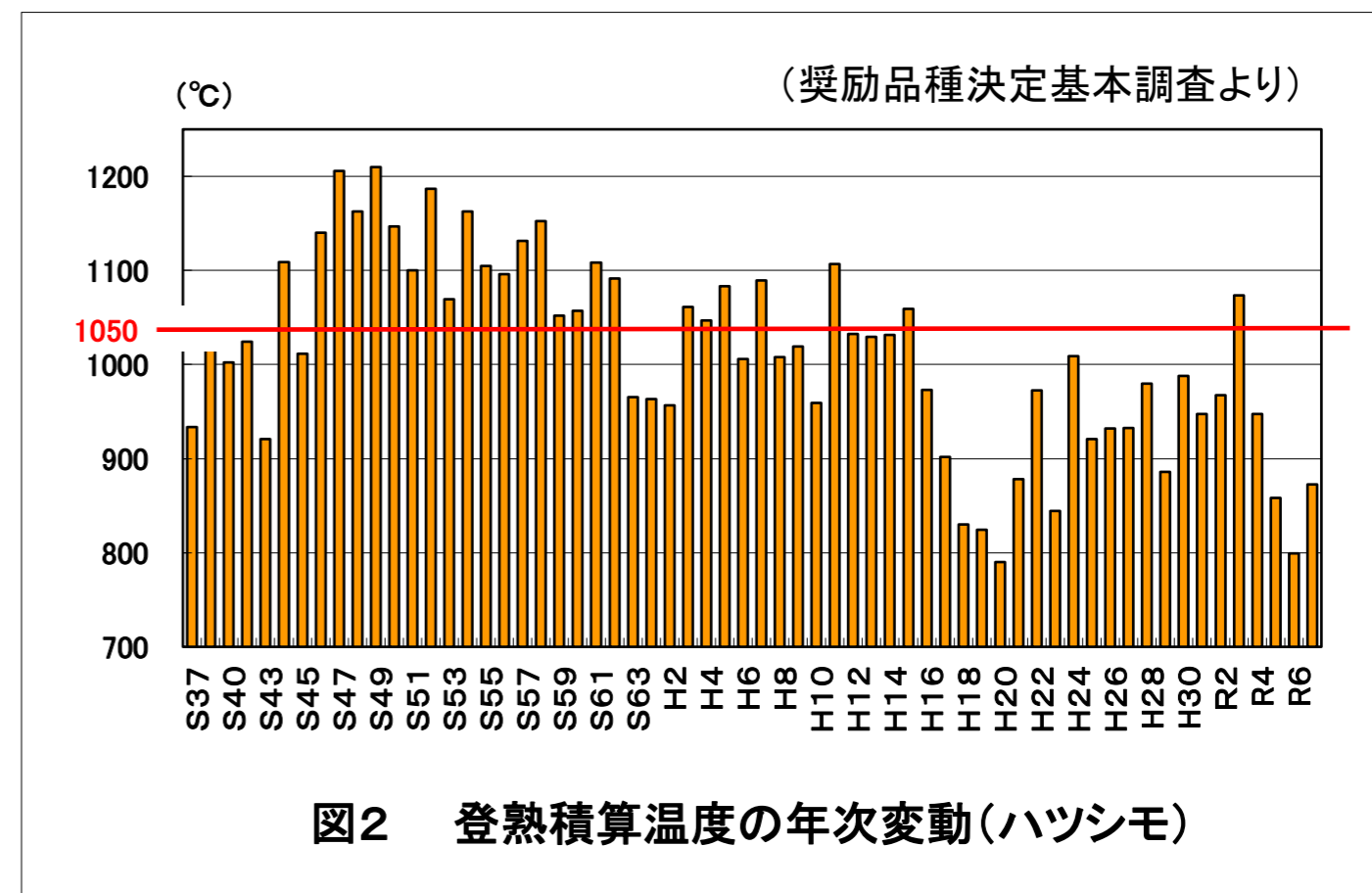


図2 登熟積算温度の年次変動(ハツシモ)

● 水稻の収穫 ～刈り遅れをなくして品質を向上させましょう～

青粃割合が10～5%程度で確実に収穫・乾燥調製された米は、胴割れも少なく、玄米特有の艶を有し、良効な外観品質を保つことが出来ます。そのために次の点に留意して適期収穫に努めましょう。

【収穫適期の判断基準】

◎ 出穂後の登熟積算温度：収穫作業の準備のための収穫最盛期の目安

・近年の気象変動の大きい中で作期・品種が様々に展開されており、出穂期以降の積算温度は成熟期の目安とし、最終的な成熟期(収穫期)の判断は必ず青粃歩合で行う。

◎ ほ場の中庸部における青粃割合が5%程度の時が収穫最盛期～終期となるよう計画的に作業を実施する。経営規模によっては青粃割合15%になった時を収穫開始とするなどの対応が必要となる。

- ・田植が同じでも地力や栽培管理によって成熟期は大きく変動する。
- ・地域全体を田植期だけで判断せず、ほ場ごとの成熟進度で判断する。

●小麦の収穫 ～収穫作業が麦の出来秋を大きく左右する～

- ◇刈り遅れによる品質低下は深刻で、穂発芽や退色粒等の外観品質の低下の他に容積重やフォーリングナンバー等の内部品質の低下を招く。
- ◇梅雨入りの平年日である6月6日の降雨率は約40%と高く、成熟期に晴れ間が続くことは期待できない。

【成熟期と収穫適期の判断基準】

- ほ場全体が黄熟色化かつ茎・穂軸まで黒化し、多くが傾穂状となった時
- 成熟期に達した後に原麦の穀粒水分28%程度となった頃が収穫開始の適期
※降雨が続くと予想される時は、30%を切った段階で収穫を始める

- ◇コンバインや共同乾燥施設等の準備など臨機応変な収穫・荷受け体制を整備する。
- ◇ほ場の成熟進度のバラツキに応じた刈り取り作業に心がける。
- ◇収穫後は速やかに施設に搬入するとともに、高水分麦の場合は予備乾燥(通風乾燥など)や穀温40℃以下での処理を心がける。

麦・大豆栽培指針(平成26年3月発行)より

●大豆の収穫 ～収穫期の見極めと品質劣化を防ぐために～

- ◇ 播種期の降雨、秋の高温や台風などによる生産不安定に加え、カメムシ吸汁等に起因する青立ち株や広葉雑草等による汚損、シワ粒の発生など、品質の低下が問題となっている。
- ◇ 2年3作体系による水田経営が主体となっており、高水分収穫による損傷や麦の播種作業によって大豆の収穫作業が遅れることによる粒の破碎等が問題である。

【成熟期と収穫適期の判断基準】

- 成熟期は葉が完全に落ちて莢及び茎の色が褐色に変わり、豆が固く莢から離れる頃で、莢を振ると豆がカラカラと音を立てる頃
- 機械収穫の適期は、成熟期から約1週間が経過した頃
※ 莖水分60%以下、子実水分が約18%以下が収穫開始の目安である

◇作業上の注意

- ・ 収穫前に大きな雑草や青立ち株を取り除く。
- ・ 刈り取りは午前10時～午後4時頃までとする。
- ・ 地際から10cm程度上で刈って泥を噛まないようにする。
- ・ 子実が高水分の場合は、作業速度を遅くし、粒の損傷や収穫ロスを少なくする。
- ・ 収穫後は速やかに乾燥施設へ搬入する。

麦・大豆栽培指針(平成26年3月発行)より

令和8年度 主要農作物奨励品種特性表

令和8年4月発行

岐阜県農政部農産園芸課

岐阜市藪田南2-1-1

TEL(058)272-1111(内4118)